

おっぱい通信

—赤ちゃんに優しい病院を目指して—

2016年

8月号

Vol.6

岩手県立磐井病院
BFHプロジェクトチーム



母乳育児シンポジウムin新潟が開催されました！

7月30・31日と、新潟県 朱鷺メッセにて第25回母乳育児シンポジウムが開催されました。当院からも4名のスタッフが参加してきました。今回のテーマは「赤ちゃんにやさしいとは何か」でした。BFHは「赤ちゃんにやさしい病院」ですが、母子にやさしいこととは何か、様々な視点から考え活発な討議が行われました。今回わかったことは、BFH認定施設の中でもミルク等の補足基準が違ったり帝王切開の後のケアなどがそれぞれ異なり、各病院のオリジナルであることです。BFH認定施設では、各病院のスタッフ達の「母子にやさしいケア」に対する考え方を一生懸命話し合い統一し決定していました。当院でももう一度私達の目指す「母子にやさしい病院」とはどんなケアなのか、話しあっていく必要があると感じました。



「母乳育児成功のための10カ条」の第7条 終日母子同室しましょう

母乳育児成功のための10カ条、第7条では「母親と赤ちゃんが一緒にいられるように、終日母子同室を実施しましょう」と述べています。

母子同室は、赤ちゃんがよく眠り啼泣が減る、赤ちゃんの体重増加も早く見られる、母親が赤ちゃんの世話に自信をもつようになるなど、とても重要です。

しかし母体の疲労や児の診察などから児を預かる慣習があり、かえって母親にやさしくないのではないかと考えられることもあります。そのため、出産前に母子同室に利点について話しておくことや、なぜ病院が母子同室をすすめるのかを母親によく説明することが必要となります。つまり、病院のスタッフ全員がそれを母親達に説明できるよう、理解しておくことが必要です。



第7条の当院での取り組み

3西病棟では、以前経膈分娩では1日目、帝王切開術後では3日目から母子同室を開始していました。現在では、経膈分娩は分娩直後から、帝王切開術でも帰室後から同室を始められています。以前の慣習で「もう同室ですか？」と聞かれることもありますが、褥婦さん方の負担を最小限にするようおむつ交換や授乳支援などきめ細かいケアに努めています。



お問い合わせ

この通信の内容に関することだけでなく、現在妊娠中・育児中の方、その家族や上司の方などの、母乳に関する様々な相談もお受けいたします。また、月1回発行予定の本通信に掲載させていただける皆様のかわいいお子様の写真も募集中です！さらに、一緒にこのチームに参加して頂ける方も大募集！！どうぞお気軽にご連絡ください★

BFHプロジェクトチーム

チームリーダー：今野貴子(3西病棟)

通信発行担当：佐藤 恵(3西病棟)

